

わたしたちは、信頼と希望と愛の輪で社会をつなぎます

SSKP
いずみ
No. 148
2008年3月

社会福祉法人 泉会

法人本部 〒157-0076 世田谷区岡本2丁目33番23号
☎03(3417)3451(代) ☎03(5494)7533
泉の家 izumi@izumikai.jp
http://izumikai.jp/izumi/
日の出舎 〒190-0182 西多摩郡日の出町平井3030番
☎042(597)1451(代) ☎042(597)2205
info@hinodesha.org
http://izumikai.jp/hinode/
岡本福祉 〒157-0076 世田谷区岡本2丁目33番24号
作業ホーム ☎03(3415)3366(代) ☎03(3415)4976
okamoto@izumikai.jp
http://izumikai.jp/okamoto/
岡本ホーム 〒158-0087 世田谷区玉堤2丁目3番1号
玉堤分場 ☎03(5707)9431(代) ☎03(5707)9433
tamatumi@izumikai.jp
http://izumikai.jp/tamatumi/

一九七七年十一月三日第三種郵便物認可(毎月一、二、三、五、六、七の日十八回発行)
二〇〇八年二月十日発行(SSKP増刊通巻二七三二号)



新・泉の家(仮称)イメージCG図(広建設計作成)

本年の聖句
愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。
(コリントの信徒への手紙1 13章4〜7節)

岡本町に産声を上げ、地元の方々に愛され、支えられて四四年経過した白亜の施設・泉の家も一部屋四・五人の同室であり、古さ・利用勝手の悪さもあり、時代に適合せず、新しく生まれ変わろうとしております。地元の説明会を行い、事業の推進にご協力をお願いいたしました。この長い年月地元の方々に支えられて今日まで歩めたことは、真に有難く感謝です。日常有難いと思う心が、生きる支えになっております。有難いと思うから大切にし、大切だから一生懸命になります。

新しい福祉の法律では、今のように入所して同じ施設で仕事をする事が認められないため、新施設は通所施設となります。新事業の内容は、生活介護二十名・就労移行支援六名・就労継続支援B型二五名・短期入所三名計五四名の規模となります。現在の六階建から三階建の施設となり、使用面積が激減するため利用面に制約を受けます。二〇〇九年秋の完成を目指しています。資金の貯えが少なく問題は山積みですが新しい器に盛られる中身が大切です。恨みや、憎しみの心は小さくて醜いものです。同じ目線で共に生きて行くことが大切であろうかと思えます。互いに助け合う心が大切であり、皆さんの優しい思いが、命に変わる福祉を目指したいと思います。

感謝

理事長 橋向敏治

泉の家事業展開

前号に引き続き、泉の家の事業展開についての、経過や取り組みをお知らせいたします。

事業展開では、法人一体の取り組みとして実施しています。
計画は、既存の泉の家がある場所に、新しい泉の家を創設し、通所事業へ移行する計画となっています。その為、入所者は継続利用ができなくなりません。

二月十五日現在、入所者一五名・通所者一四名となっています。国庫補助の内示が出る七月には、入所者をゼロ名にする移行計画です。通所者はその期間代替地にて活動を進めていきます。

事業展開!

Part II

解体後は、文化財包蔵地となっているので、発掘調査が行われることとなります。その間に掛かる費用は、事業所が負担すること

らっしゃいます。長年住み慣れた泉の家を解体することは寂しく、また新たな生活に向け不安なことなどが多くなり、ご迷惑をお掛けすることお許しください。退所された方々は、介護保健施設や病院・旧法人所授産施設・内部障害者施設・リハビリ施設・住宅・自宅などへ移行されています。皆、寂しい思いの中でも、新たな生活に夢を持って退所されていかれました。今後、ご本人やご家族・保護者のご理解をいただきながら、実施機関と協力し、不安を少なくして、満足できる移行先を確保できるように取り組んでいきます。また他法人から入所者の受入れ協力もありました。一つでも多くの選択肢を提供出来るよう働きかけを続けていきます。

内示があった後は、解体に向け解体業者の入札を行います。同時に代替地への引越・新事業への移行などを行います。

泉の家



泉の家 事業展開イメージ立体模型 作 保坂健晴

更なる事業展開を

入所施設から多機能型の通所施設(就労移行支援・就労継続B型・生活介護及び短期入所併設)への移行を予定しております。

さて、泉会では「泉の家事業展開」の課題の一つとして「建築期間中の代替地確保」があります。現在、入所施設を利用している方は、他施設や地域での生活支援の移行を進めています。通所で泉の家に通ってき

ている方の活動場所を確保しなくてはなりません。期間は、二〇〇八年七月から二〇〇九年十二月末までの予定です。

建設後も代替地を分場として有効活用し、区民の活動の場を確保する。
②住居の場としてグループホームを設立。
③知的障がい者や高次脳機能障がい者等への外出支援などヘルパーステーションの設立。

これらの事業展開は、泉会中期計画の中で目録化し、新事業展開の中で、泉会が地域に果たす社会的役割と考えます。是非、代替地を活用した世田谷区民の福祉ニーズに沿った事業展開にご支援とご協力をお願い申し上げます。

(鈴木 弘士)

になっていきます。高額の費用も予想されます。更に発掘調査期間が長引くと、着工計画にも影響がでます。また、建築確認も構造計算の改算などの問題により、確認に時間がかかる状況もあります。建築確認後、建築業者の入札を行い着工となります。タイトな日程が予想されます。

☆社会福祉法人泉会 泉の家の歴史を胸に☆

一月十九日に恒例の新年会を実施いたしました。今年が、既存の建物で行うのが最後になる予定から、サブタイトルを「ファイナル！新年会」としました。

その中で、泉会五十年と併せ、泉の家の歴史をスライドに加工して上映をいたしました。古い町並みや人びと、懐かしい人や建物などが次々に現れます。場面、場面で驚きや笑い、また、しみみりと感慨深く、とっても良い物が出来ました。ぜひ観に来て下さい。いつでも大歓迎です。

【お知らせとお願い】七月末に、お別れ会(仮)を企画致します。ご協力していただける方、ご連絡ください。一人でも多くの方々に参加していただける会にしたいと思います。

をおかけいたします。しかし、今までも泉会は、それらの状況乗り越え、今日まで先達の思いや法人の理念を忘れることなく、障がいのある方々への支援を続けてきました。多くの支援に支えられてきたことが、財産となり、今日まで続けられたことと確信しています。

今一度、この厳しい状況を乗り越え、事業展開が出来るよう力強いご支援をいただきたくお願い申し上げます。

(保坂 俊晴)

四十三年の思いに 向かって!

一九五三(昭和二八)年六月都内世田谷区国立大蔵病院で過ごしていた損傷元軍人のため「大蔵身体障害者更生相談所」に始まった社会福祉法人泉会は、一九六四(昭和三九)年同じ区内岡本に現泉の家一階、地下部分を開設、二年后地上五階建てに増築、爾来四二年、度重なる風水被害等による雨漏り等、修繕で対応してきました。老朽激しく震災対策も施されず、今日を迎えています。何度となく建て替え整備の話もありましたが、途中頓挫し、実現にまで漕ぎ着けませんでした。

ようやく時が満ちて、世田谷区及び東京都のご理解が得られ、国庫補助協議にまで進むことが出来ました。感謝です。

建物本体整備は計画が認められれば、実現のめどが立ちますが、建設地の考古埋蔵調査(土地所有主負担)、工事期間中の代替地確保による通所支援、地域生活支援のためのグループホーム等の借り上げ、等々、本工事以外のみで数千万円単位で諸費用が必要となります。

さらにはこの後、築三十七年の「日の出舎」施設整備が予定されています。「いずみ友の会」が中心となり、全国からの寄付により、法人では施設整備のため四千万円を超える資金を積み立ててきています。建物本体の整備は自治体及び国の助成を仰ぐこととなりますが、計画を円滑に進められるように法人施設整備資金として一億円をめざしたいと考えています。

社会経済の状態が不安定な中ではありますが、念願の施設整備を推進し、この地で五五年続いていた障がい者福祉への取り組みを前進させるため心よりご支援をお願い申し上げます。

ご協力いただけるお仲間のご紹介も合わせてお願い申し上げます。

(奥村 次雄)



岡本ホームだより

岡本ホーム一日の流れ

今回は岡本福祉作業ホームの日常の様子を紹介したいと思います。

八時五十分頃

岡本福祉作業ホームの主役、利用者が通所してくる時間です。約八割の方がふれんどバスを利用して通所しており、それ以外の方は、ご自分で電車、バスの利用や自宅から電動自転車を利用して通所をしています。バスの中はコミュニケーションの場にもなっております。



パソコンで機関誌の原稿入力です

り、運転手や添乗員との会話が盛り上がっているようです。

九時～九時四十分

朝の打合せの時間までの間、皆さん思い思いの時間を過ごしています。泉の家の自動販売機に飲み物を買に行く方や、自由時間も関わらず自主的に洗濯された作業用のタオルやエプロン、歯磨きタオルなどたたんで下さる方もいます。

九時四十分～十時

順番で利用者が司会を務め朝の打ち合わせを行います。この時間は当日の予定やボランティアさん



小林さんのタオルたたみもすっかり日常の1コマに

休み時には缶ジュースを買いに行きます。

の紹介、連絡事項などを発表します。最後に体操を行い、体をほぐし作業に備えます。

十時～十一時五十分

十三時～十四時半

活動の中心となる作業時間です。アートコース・ワークコースに分かれて作業活動を行っています。それぞれコース毎のホワイトボードがありアートコースでは自分の希望する作業種目に自分の名札を貼り、ワークコースではその日の作業の状況によって職員が決め、利用者の名札を貼ってその日の担当作業が分かるようにしてあります。主な作業種目は：
アートコース
陶芸、紙すき、絵画



陶芸作業中は真剣そのものの中村さん。

ワークコース

パソコン、織り、下請け、コピー等です。

楽しみながらも真剣に作業に取り組んでいます。

十二時～十三時

皆さん楽しみにしている昼食、お昼休みです。食後はトランプ、散歩、近所のパン屋さんに行くコピー機を買いに行く等、それぞれの時間を過ごしています。

今回、紹介した以外にも様々な活動をしています。皆さんぜひ一度遊びに来てください。

(越川 則行)

日の出舎だより

健康促進

エアロビやっています！

日の出舎では、今年一月よりエアロビの時間枠を拡大して、二時間の活動にしました。今後さまざまなに検討を加えながら、利用者の体力の維持・向上の機会の提供に努めていきます。

日の出舎の利用者にも、加齢とともに、肉体的な衰えに直面し、体力向上を要する方が増えてきました。この世に生れ落ちた以上、老いに抗うことは不可避ではありますが、一方、体力維持を実践しようと考えても、普段の生活のなかで体力づくりや外出の機会を得ることはなかなか容易ではありません。施設側としても、利用者に体力維持の機会を提供することは責務で



みんなで楽しくエアロビやっています

あると考えていて、利用者にとって、無理なく笑顔で取り組むことのできるプログラムを提供していきます。

今回は、エアロビクラブの先生と相談して、時間を延長し、さまざまなバリエーションを取り入れることにしました。これまでの、音楽に合わせたダンスのほか、呼吸法や中国の健康体操、インドのヨーガなども行います。今後もし

ろいろなプログラムを取り入れていきたいと考えています。

リハビリ始めました

今日、日の出舎でも利用者の平均年齢の上昇に伴い、健康への取り組みが必要になってきています。施設という閉鎖された空間では、身体的活動は自然と制限されたものになってしまい、体力の向上・維持に必要な運動量を確保することはなかなか困難です。日の出舎では、利用者への運動の機会の提供を重要な責務と考え、新たにいくつかの取り組みを始める計画です。

ご存知のとおり、運動は有酸素系運動と無酸素系運動に大別できます。有酸素運動は比較的緩やかなペースで酸素を大量に消費しながら行う運動で、ジョギングや水泳などに代表されます。一方、筋力トレーニングは無酸素運動に属します。一般的には、健康目的のトレーニングというと有酸素運動を思い浮かべますが、最近の研究では、呼吸・循環器への効果は有酸素運



さ～、足をあげましょう。

動には及ばないものの、無酸素運動も健康の増進・維持に大いに関わりがあることがわかってきました。無酸素運動には、筋機能の維持・改善、骨量の維持、内分泌機能の活性化と恒常性の増進などの効果があり、両方をうまく使い分けることで、効果的に健康維持・増進を図ることができます。

健康的に生活することは、そのまま自立した生活を維持することに繋がります。

(二見 秀彦)

泉の家だより

最後の展覧会

前回の「ギャラリー特集」に数点掲載しましたが、泉の家にはたくさんさんのアート作品が眠っています。最近「アート活動」をする人は減りましたが、以前は油絵、水彩画、木工作など、中には小説を書く方までいました。

施設公開、学校のお祭り参加時などで展示をしていますが、会場を借りての「展覧会」は最近行っていないです。これには深い理由があります。

色々な展示会場の抽選に行くのですが、近隣の商店などの展示スペースにも打診しましたが、かなり先までの予定が埋まっています。入り込む事が出来ていませんでした。昨秋の「世田谷美術館」の抽選も予想通り二年連続で外してしまい、後は「二〇〇八年春季」の抽選のみとなってしまいました。現在の「泉の家」としては本当に最後のチャンスなので、何と

しても!と思っていたところ:施設長自らが抽選に行き、見事に開催権を手に入れました。久しぶりの「泉の家アート展(仮)」が開けます。

事業展開を進めていく中、これからは更に多忙になり、準備も大変だと思えますが、利用者の方々、職員一体となって成功させたいと思います。現行の「泉の家」最後の展覧会に是非お越しください。
(齋藤 典子)

「泉の家 アート展(仮)」
開催場所:世田谷美術館
世田谷区砧公園一―二(砧公園内)
開催日程:二〇〇八年六月十日、六月十五日



展覧会に向け新しい作品を制作中

玉堤分場だより

玉堤分場フィットネスクラブ

玉堤分場では、金曜日に生活支援の一環としてクラブ活動を行っています。

通常は「書道」「押し花」「調理」の三つのグループで活動しておりますが、この秋口より利用者方の熱いニーズにより第四のクラブが発足致しました。その名も「玉堤フィットネスクラブ」です。

玉堤分場では、人生半ばにして身体に障がいを持たれ、施設を利用していらっしゃる方が殆どです。

生活が大きく変わり、それ故の運動不足によって体重が増え、てしまう人も少なくはないので

玉堤フィットネスクラブは利用者ご自身のペースで無理なく出来、かつ楽しみながら出来る方法というテーマで、公園や住み慣れた地域の中の散策を行っています。



みなさん、笑顔でゴールインです。

クラブ発足第一回は、駒沢公園を散策しました。
駒沢公園内の環状となったジョギングコース。その約四分の一の距離を歩きました。四分の一とはいえ、往復で五〇〇メートルあります。

普段長距離を歩き慣れない方の中には途中で息を切らしてしまう方もおられました。
急がず慌てず、笑い話や駒沢公園での思い出話を話して歩かせながら休み休みゆっくりコースを歩き、ゴールに着いた時には皆さんとても素敵な笑顔を見せておりました。

(木村 守孝)

自立

岡本ホーム

今回は横山貢さんを紹介いたします。横山さんは脳性麻痺による四肢体幹機能障害という重い障がいを抱えながら、電動車椅子やパソコンを足で操作し、周りの方々に支えられて充実した生活を送っています。



左足でパソコンを操作し、絵を描きます

横山さんの生活の中でパソコンは欠かせないものだと思いますがいつ頃から始められたのでしょうか。

横山さん 高校生のときに先生と一緒にどうしたら足でもタイプが打てるようになるか考えました。私はしゃべることが出来ないもので、以前は自分の言いたい単語を文字盤で伝えるだけでしたが、今はメールで相手とのやり取り、会話が楽しめるようになって本当に楽しい。パソコンのおかげで友達も増えました。岡本ホームではペインターというソフトを使い絵を描いて、ポストカードやカレンダーに加工しています。

横山さんはよくボランティアの方々と出かけられていてとても楽しそうですね。

横山さん よく出かけるのはわかたけサークルの学生です。上智大の学生が中心になって行っている、障がい児わかたけ学級の子供達と交流するサークルです。私はわかたけ学級ではなかったけれども、学級に通う子供の送迎ボランティアを母親がしていたことがきっかけで知り合いました。小学生からの



わかたけサークルのメンバーと観覧車にて

付き合いなのでう相当長いです。活動の一環として年一回旅行に連れて行ってくれます。他にも活動を離れて、学生達と映画やカラオケ、居酒屋なんかにいきます。他にも何か活動していることはありますか?

横山さん 十数年前から乗馬を始めました。親やボランティアと一緒にいきます。障がい者の乗馬は三名が一チームになって行きます。両サイドに一名ずつついてくれるので安心です。乗馬はリハビリにも良く、馬の上で身体をねじったり前後運動が自然に出来ます。私のよ



馬に乗り、手綱を握る横山さん

うに緊張が強い人はとても楽になります。私は普段車椅子から人を下から上へ見上げていますが、馬に乗ったとき、初めてみんなの気持ちが変わりました。
それから「えるぶ」という英会話教室にも一人で電車に乗って通っています。狛江駅からはボランティアと待ち合わせしています。首から「祖師谷から狛江まで」と書いたカードをぶら下げて行きます。そうすると駅員が切符を買ってくれて電車に乗せてくれるのです。
最後に何かメッセージはありますか?

(河村 律子)



(玉堤分場)



今年度、玉堤分場では押し花を使った作品のシリーズを作ってきました。
このシリーズは、押し花カードを利用者全員で作り、組み合わせた合作です。

一九七七年十二月三日第二種郵便物認可(毎月一、二、三、五、六、七の日十八回発行)
二〇〇八年二月十日発行(SSKP増刊通巻三七三号)

発行所 障害者団体定期刊行物協会 領仙五十円
編集人 東京都世田谷区筋六の二六の二二
社会福祉法人 泉会

製品紹介

日の出舎

「ウッディドミノDX」

ウッディドミノはひのき材をふんだんに使用しています。ひのきにはヒノキチオールという芳香性の物質が含まれており、精神安定効果や抗菌作用があり、お子様も安心して遊ぶことが出来ます。さらに光の反射率が50~60%で人間の目に最も心地よいとされています。

ウッディドミノDXはドミノの他、積み木・シーソー・ビー球等がセットされているため様々な方法で遊ぶことができ、子供の感性を豊かにします。



- 箱サイズ 縦 25cm × 横 14cm × 高 9cm
- ドミノサイズ 4.2cm × 2.4cm × 0.9cm
- ドミノ 72ピース
- 積み木各種 21ピース
- シーソーセット 2セット
- ビー球レール 6個
- ビー球 5個



注文先：日の出舎 042-597-1451

価格3,000円(税込)